

教化名	年間授業時数	学年
保健体育	保健 19 時間 体育 98 時間 計 117 時間	3
授業形態	指導者名	
2クラス合同・3学年合同（縦割り授業）	鈴木 浩司・森 逸美・柏木 洋輝	

教科書(発行所)	最新 中学校保健体育(株式会社 大修館書店)
教科書以外の教材(発行所)	中学体育実技(株式会社 学研教育みらい)

目 標	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 運動についての自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。
学習のねらい	《体育分野》 1 体づくり運動 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組む。 2 器械運動 技ができる楽しさや喜びを味わい、運動観察の方法や体力の高め方などを理解するとともに、自己に適した技で演技することができるようにする。 3 陸上競技 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けることができるようにする。 4 球技 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。 5 武道 技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて攻防を展開することができるようにする。 6 ダンス 感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、踊りの特徴と表現の仕方や運動観察の方法などを理解するとともに、イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表をする。

7 体育理論:文化としてのスポーツの意義

体づくり運動、ダンスや野外活動などを含む広義のスポーツが、人々の生活や人生を豊かにするかけがえのない文化となっていること、また、そのような文化としてのスポーツが世界中に広まっていることによって、現代生活の中で重要な役割を果たしていることなどの現代スポーツの価値について理解できるようにする

《保健分野》

1 健康な生活と疾病の予防

(オ)感染症の予防

①感染症の予防

感染症は、病原体が環境を通じて主体へ感染することで起こる疾病であり、適切な対策を講ずることにより感染のリスクを軽減することができることを、例えば、結核、コレラ、ノロウイルスによる感染性胃腸炎、麻疹、風疹などを適宜取り上げ理解できるようにする。

②エイズ及び性感染症の予防

エイズ及び性感染症の増加傾向と青少年の感染が社会問題になっていることから、それらの疾病概念や感染経路について理解できるようにする。

(カ)健康を守る社会の取組

健康の保持増進や疾病の予防には、健康的な生活行動など個人が行う取組とともに、社会の取組が有効であることを理解できるようにする。

2 健康と環境

(ア)身体对环境に対する適応能力・至適範囲

①気温の変化に対する適応能力とその限界

気温の変化に対する体温調節の機能を例として取り上げ、身体には、環境の変化に対応した調節機能があり、一定の範囲内で環境の変化に適応する能力があることを理解できるようにする。

②温熱条件や明るさの至適範囲

温度、湿度、気流の温熱条件には、人間が活動しやすい至適範囲があること、温熱条件の至適範囲は、体温を容易に一定に保つことができる範囲であることを理解できるようにする。

(イ)飲料水や空気の衛生的管理

①飲料水の衛生的管理

水は、人間の生命の維持や健康な生活と密接な関わりがあり重要な役割を果たしていること、飲料水の水質については一定の基準が設けられており、水道施設を設けて衛生的な水を確保していることを理解できるようにするとともに、飲料水としての適否は科学的な方法によって検査し、管理されていることを理解できるようにする。

②空気の衛生的管理

室内の二酸化炭素は、人体の呼吸作用や物質の燃焼により増加すること、そのため、室内の空気が汚れてきているという指標となること、定期的な換気は室内の二酸化炭素の濃度を衛生的に管理できることを理解できるようにする。

(ウ)生活に伴う廃棄物の衛生的管理

人間の生活に伴って生じたし尿やごみなどの廃棄物は、その種類に即して自然環境を汚染しないように衛生的に処理されなければならないことを理解できるようにする。

定期考査	出題方針	・教科書の内容を中心に、ノート・教材プリントなどから出題する。	
	範囲 (予定)	第1回考査	なし
		第2回考査	体づくり運動・陸上競技・球技・保健 など
		第3回考査	なし
		第4回考査	なし
		学年末考査	陸上競技・球技・ダンス・保健 など

評価の観点 ・評価の方法	・評価の観点は、①知識・技能、②思考力・判断力・表現力など、③主体的に学習に取り組む態度、の3項目とする。 《体育分野》 ・評価の方法は、自己評価・相互評価・レポート提出・運動技能テスト・出席状況など、により、総合的に観点別に評価する。 ・毎時間が評価の対象であり、数回の運動技能テストも行う。 《保健分野》 ・評価の方法は、定期考査・提出したノートやレポートなどの記述内容、出席状況など、により、総合的に観点別に評価する。
先生からアドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、 ノートの取り方など)	《体育分野》 ・更衣を早くして、授業には遅刻しない。 ・体調の自己管理をし、体調が悪いときには担当教師に申し出る。〔付箋などを活用〕 ・準備物を整えて、忘れ物をしない。 《保健分野》 ・保体ファイルやノートなど、提出物を大切にする。 ファイルやノートなど記述内容の評価は大きいので、しっかりと考察して提出しましょう。 ・準備物を整えて、忘れ物をしない。

年間授業計画表（45分授業）

学期	月	学 習 内 容	時数	学 習 の ポ イ ン ト
前期	4	・体づくり運動(体ほぐしの運動)	6	・自己の体に気付き、仲間と交流する。
		・体づくり運動(体力を高める運動)	6	・上級生と下級生の交流を深める。
	5	・陸上競技(短距離走・リレー)	6	・互いに協力しながら、体力を高める。
	6	・文化としてのスポーツの意義	4	・安全に留意し、基本技術を習得する。
		・球技(ハンドボール)	4	・互いに協力しながら、手際よく測定できるようにする。
		・選択種目 □武道(剣道) □球技(テニス・卓球)	8	・運動やスポーツについて理解を深める。
		・健康な生活と疾病の予防	4	・安全に留意し、互いに協力しながら、基本技術を習得する。また、練習やゲームを行う。
	7	《第2回考査》		・安全に留意し、互いに協力しながら、基本技術を習得する。また、練習やゲームを行う。
		・ダンス(フォークダンス)	6	・生活の中で、改善や実践の仕方を理解する。
	8			・互いに協力しながら練習を行う。
後期	9	・球技(バスケットボール)	4	・安全に留意し、互いに協力しながら、基本技術を習得する。また、練習やゲームを行う。
		・選択種目 □武道(剣道) □球技(テニス・卓球)	8	・安全に留意し、互いに協力しながら、基本技術を習得する。また、練習やゲームを行う。
		・健康な生活と疾病の予防	4	・生活の中で、改善や実践の仕方を理解する。
	10	・球技(バスケットボール)	4	・安全に留意し、互いに協力しながら、基本技術を習得する。また、練習やゲームを行う。
		・選択種目 □武道(剣道) □球技(テニス・卓球)	12	・安全に留意し、互いに協力しながら、基本技術を習得する。また、練習やゲームを行う。
		・健康と環境	11	・生活の中で、改善や実践の仕方を理解する。
	11	・球技(バレーボール)	8	・安全に留意し、互いに協力しながら、基本技術を習得する。また、練習やゲームを行う。
	12			
	1	・陸上競技(長距離走)	10	・自分の目標を立て、ペースを設定して安定したタイムで走ることを最上位の目標とする。
	2	・選択種目 □陸上競技 □器械運動 □ダンス 《年度末考査》	12	・安全に留意し、互いに協力しながら、基本技術を習得する。
総時間数			117	体育 98時間 保健 19時間

教科名	年間授業時数	学 年
技術・家庭科（技術分野）	20	3
授業形態	指導者名	
一斉授業	木挽屋 菜摘	

教科書（発行所）	技術・家庭 技術分野（開隆堂）
教科書以外の教材（発行所）	技術・家庭ノート（開隆堂）

目 標	実践的・体験的な学習活動を通してエネルギー変換及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。		
学習のねらい	D 情報の技術 （1）生活や社会を支える情報の技術について調べる活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 情報の表現、記録、計算、通信の特性等の原理・法則と、情報のデジタル化や処理の自動化、システム化、情報セキュリティ等に関わる基礎的な技術の仕組み及び情報モラルの必要性について理解すること。 イ 技術に込められた問題解決の工夫について考えること。 （2）生活や社会における問題を、ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによって解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 情報通信ネットワークの構成と、情報を利用するための基本的な仕組みを理解し、安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができること。 イ 問題を見いだして課題を設定し、使用するメディアを複合する方法とその効果的な利用方法等を構想して情報処理の手順を具体化するとともに、制作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えること。 （3）生活や社会における問題を、計測・制御のプログラミングによって解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 計測・制御システムの仕組みを理解し、安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができること。 イ 問題を見いだして課題を設定し、入出力されるデータの流れを元に計測・制御システムを構想して情報処理の手順を具体化するとともに、制作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えること。 （4）これからの社会の発展と情報の技術の在り方を考える活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 生活や社会、環境との関わりを踏まえて、技術の概念を理解すること。 イ 技術进行评估し、適切な選択と管理・運用の在り方や、新たな発想に基づく改良と応用について考えること。		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、技術・家庭総合ノート、問題集、教材プリントなどから出題する。	
	範 囲 (予定)	第1回考査	実施しない
		第2回考査	D 情報の技術 ○計測・制御のプログラミング
		第3回考査	実施しない
		第4回考査	実施しない
		年度末考査	D 情報の技術 ○双方向性のあるコンテンツのプログラミング
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3項目である。 ○具体的な評価は、定期考査、授業中での作品、技術・家庭ノート、教材プリント、レポートなどを適正に活用して総合的に行う。また必要に応じて自己評価も取り入れる。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	技術は、実践的・体験的な学習活動を通して、情報やコンピュータの活用に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、プログラミングに関する学習を通して、将来の自分の夢を実現するときにかされる技術的素養を身に付ける学習です。 技術が果たす役割について理解を深め、それらを適切に活用する能力と態度を身に付けることが大切です。学習を通して、将来の自分の夢を実現するときにかされる技術的素養を身に付けましょう。		

年 間 授 業 計 画 表 (45分授業)

期	月	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期	4	○情報の技術 ●情報とコンピュータ ・コンピュータの構成 ・コンピュータの機能と装置 ・コンピュータを使って機器を自動で動かすしくみ ・コンピュータによる処理のしくみ	1	・コンピュータシステムの構成とソフトウェアの働きを知る。 ・コンピュータがもつ主な機能と主な装置の仕組みを知る。 ・計測・制御システムの基本的なしくみと各要素のはたらきを知る。 ・プログラムによる処理の自動化の方法を知る。
	5			
	6	●計測・制御による問題解決	8	・使用するロボットにおける基本のプログラムを制作する。 ・計測・制御のプログラミングを利用した問題解決の手順を知る。
	7	《第2回考査》		・課題の解決策を条件を踏まえて構想する ・プログラムの試行・試作を通じて設計を具体化し、フローチャートにまとめる。
	9	●情報の表現と伝達 ・使いやすさを工夫した情報の表現 ・メディアを利用した情報の表現 ・情報通信ネットワークのしくみ ・Webのしくみと情報の表現 ●双方向性のあるコンテンツによる問題解決	6	・情報の使いやすさやわかりやすさに関する工夫を知る。 ・情報の表現手段やコンテンツの特徴を知る。 ・情報通信ネットワークの構成や情報をやりとりするしくみを知る。 ・Webにおける情報の表現方法を知る。 ・互いにコメントなどを送受信できる簡易なチャットのプログラムを制作する。 ・双方向性のあるコンテンツのプログラミングを利用した問題解決の手順を知る。 ・課題の解決策を条件を踏まえて構想する ・プログラムの試行・試作を通じて設計を具体化し、フローチャートにまとめる。
後 期	10			
	11	●情報とコンピュータ	2	・情報のデジタル化のしくみやデジタル情報と情報の量の関係を知る。
	12	・情報のデジタル化 ・デジタル情報の特徴		・デジタル化された情報の特徴や情報を圧縮する目的と基本的な仕組みを知る。
	1	●情報セキュリティと情報モラル ・情報セキュリティ ・情報モラル ・知的財産の保護と活用	2	・情報セキュリティの重要性と危険を防ぐための技術を知る。 ・基本的な情報セキュリティ対策をまとめる。 ・情報モラルの必要性と情報を収集・発信するときに注意することを知る。 ・情報社会で人権などの権利を尊重する必要性を考える。 ・知的財産を保護する必要性と利用方法を知る。 ・知的財産の望ましい活用を考える。
	2	●これからの情報の技術	1	・情報の技術での学習を振り返る。 ・情報の技術の見方・考え方について考える。 ・情報の技術を評価し、適切な選択と管理・運用のあり方や、新たな発想に基づく改良と応用について考える。
		総 時 間 数	20	

教 科 名		年間授業時数	学 年
技術・家庭科（家庭分野）		19	3
授 業 形 態		指 導 者 名	
前期：一斉授業 後期：一斉授業		小 山 有 紀	

教科書（発行所）	技術・家庭 家庭分野（開隆堂）
教科書以外の教材（発行所）	中学校技術・家庭科用 技・家ノート 家庭分野（開隆堂）

目 標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 (2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。 (3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする 実践的な態度を養う。		
	A 家族・家庭生活 (2) 幼児の生活と家族 ア 次のような知識を身に付けること。 (ア) 幼児の発達と生活の特徴が分かり、子供が育つ環境としての家族の役割について理解すること。 (イ) 幼児にとっての遊びの意義や幼児との関わり方について理解すること。 イ 幼児とのよりよい関わり方について考え、工夫すること。 (3) 家族・家庭や地域との関わり ア 次のような知識を身に付けること。 (ア) 家族の互いの立場や役割が分かり、協力することによって家族関係をよりよくできることについて理解すること。 (イ) 家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることが分かり、高齢者など地域の人々と協働する必要があることや介護など高齢者との関わり方について理解すること。 イ 家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について考え、工夫すること。 C 消費生活 (1) 金銭の管理と購入 ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) 購入方法や支払い方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解すること。 (イ) 売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解し、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできること。 イ 物資・サービスの選択に必要な情報を活用して購入について考え、工夫すること。 (2) 消費者の権利と責任 ア 消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解すること。 イ 身近な消費生活について、自立した消費者としての責任ある消費行動を考え、工夫すること。		
定 期 考 査 評価の観点・ 評価の方法 目 標	出題方針	教科書とノートの内容を中心にプリント、ワークシートからも出題。	
	範 囲 (予定)	第2回考査	・金銭の管理と購入 ・消費者の権利と責任
		年度末考査	・幼児の生活と家族 ・家族・家庭や地域との関わり
学 習 の ね ら い	・評価の観点は家庭科の「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3点とする。 ・授業への取り組み方、発表・プレゼン・レポート、ワークシートの記述等から総合的に評価する。		
定 期 考 査	・忘れ物をしない。 ・時間を守る。 ・人の話を集中して聞く。 ・課題をきちんと行い提出する。 ・学習内容を家庭で実践する。 ・自らの家庭生活を見つめ、家庭生活に対する課題や考えをもつ。		

年間授業計画表（４５分授業）

学期	月	学 習 内 容	時数	学 習 の ポ イ ン ト
前期	4	○家庭生活と消費 ①消費生活のしくみ	1	・物資とサービスの特徴がわかる。 ・消費生活のしくみがわかる。
	5	②家庭生活における収入と支出 ○購入・支払いと生活	1	・収支のバランスをはかり、計画的に金銭管理する必要があることがわかる。
	6	①いろいろな購入方法 ②購入前に知っておくこと	1 1	・店舗販売と無店舗販売の特徴がわかる。 ・売買契約について問題発生の原因や予防方法を含め、理解する。
	7	③いろいろな支払い方法 ④情報を活用した上手な購入	1 1	・即時払い、前払い、後払いの特徴を理解し、利点と問題点を理解する。 ・生活情報の収集や活用のしかたを理解し、目的に合った商品を選ぶことができる。
		○消費者被害と消費者の自立 ①なくならない消費者被害	1	・消費者被害の現状や背景について理解し、予防の方法がわかる。
		②消費者を支えるもの	0.5	・消費者を支えるしくみについて理解できる。
		③消費者の権利と責任	0.5	・消費者の権利と責任について理解し、自立した消費者をめざす。
		〈第２回考查〉		
	8	○幼児の生活と家族		
	9	①幼児のころと今の自分 ②幼児の体の発達 ③幼児の心の発達 ④発達にとってのおとなの役割	1 1 1 1	・幼児期への関心をもつ。 ・幼児の身体の発育について、発達の方方向性や順序性とともに、個人差があることを理解する。 ・幼児の言語・認知・情緒・社会性等の発達について理解する。 ・子どもが育つ環境としての家族や周囲のおとなの役割について理解する。
後期	10	⑤遊びが必要なわけ ⑥遊びを支える環境	1 2	・自分の実践的・体験的な活動を通して、幼児にとっての遊びの意義を理解する。 ・幼児にとって遊びは生活そのものであり、十分な遊びを経験できる環境が重要であることを理解する。
	11	○家庭生活と地域のかかわり ①家庭生活と地域での活動	1	・家庭生活は、地域との相互のかかわりで成り立っていることを理解する。
	12	②多様な人びとが暮らす地域	1	・地域で多様な人びとが暮らせるための工夫を理解する。
	1	③地域に暮らす高齢者	1	・地域で活動する高齢者や、見守りが必要な高齢者などさまざまな高齢者がいることを理解する。
	2	④高齢者とのかかわり 〈年度末考查〉	1	・地域で活動する高齢者や見守りが必要な高齢者とのかかわりを考える。
		総 時 間 数	19	

教科名	年間授業時数	学年
英語（英語・英語C）	195	3
授業形態	指導者名	
習熟度別による少人数授業および一斉授業	吉本亜希穂 土井夏美 Kevin Glenn Phiefer	

教科書（発行所）	NEW HORIZON English Course 3（東京書籍）		
教科書以外の教材（発行所）	・実力練成テキスト3（文理） ・中高一貫テキストNEW TREASURE Stage 2 Third Edition（Z会出版） ・NEW TREASURE 文法問題集 Stage 2（Z会出版） ・チャンクで英単語Standard（三省堂）		
目標	外国語（英語）によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと（やりとり）（発表）」、「書くこと」の言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。		
学習のねらい	・言語の4技能5領域（「聞くこと」「話すこと（やりとり）（発表）」「読むこと」「書くこと」）をバランスよく学習する。 ・250語程度のまとまった英語を聞いて、その内容を理解することができる。 ・質問・応答・紹介・交渉・説明・論理的な自己表現などができる。 ・200語程度のまとまった英語を読んで、その内容を理解することができる。 ・基本的な文法・語いを使って、300語程度のまとまった英語を書くことができる。		
定期考查	出題方針	中高一貫テキストNEW TREASUREの内容を中心に、検定教科書にも触れながら、副教材問題集、教材プリントなどから出題する。 Listening Comprehensionは必ず行う方針である。	
	範囲 (予定)	第2回考查	中高一貫テキスト NEW TREASURE 2 Lesson 7～8 検定教科書内容
		第3回考查	中高一貫テキスト NEW TREASURE 2 Lesson 9～10 検定教科書内容
		第4回考查	中高一貫テキスト NEW TREASURE 2 Lesson 11 検定教科書内容
		年度末考查	中高一貫テキスト NEW TREASURE 2 Lesson 12 検定教科書内容
評価の観点・評価の方法	評価の観点は、知識・技能・思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3項目とする。具体的な評価は、定期考查を中心に、ファイル、単元テスト、その他の提出物を含む課題、授業への取組状況等を適切に活用して総合的に行う。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	中学3年生では、習熟度別（希望による）少人数授業を展開します。標準コースではこれまでの学習と同様に、基礎・基本の定着を目指した演習や言語活動などを通して学習を進めていきます。発展コースではより細かな文法指導やその文法を駆使したより発展的な言語活動などを通して、言語使用場面に合わせて学習したことを実践的なものにまで高めていきます。 どちらのコースにも共通して大切なことは、①予習②授業③復習のサイクルを確立することです。家庭学習は高校進学を視野に入れ、1時間以上を目標に取り組みましょう。まず、①予習では、単語調べ、文法問題集（Basic）をできる範囲でやってきましょう。予習の段階で疑問に思ったことは授業で確認し、それでも不明な点は授業後に先生に確認しましょう。②授業では、言語活動中は音を大切にしっかりと発音することです。五感をフル活用しましょう。一方、書く練習やまとめの作業では静かに書くことで整理します。活動の1つ1つにねらいをもち、けじめをつけて学習しましょう。さらに、ペアなどによる学び合いの姿勢も大切に、お互いに高め合っていきましょう。その日学習したことは必ず③復習します。文法問題集（Standard）をしったり、実練をしったり、教科書を音読したり、文法事項を自分でまとめたりするなどの努力を欠かさずしましょう。<u>この毎日の積み重ねが定着につながります。</u>週5時間の授業と毎日の家庭学習（1時間以上）をフル活用して、実践的な英語力を身に付けていきましょう。		

年間授業計画表(45分授業)

期	月	学習内容				時数
前期	4	Unit 0 Discover a New Side of Classmates. Unit 1 What is special about Japanese pop culture? Unit 2 How do you choose your clothes?	・1・2年の振り返り ・現在完了 経験 完了 継続 ・現在完了進行形	2年時の復習 Stage2 Lesson 7 Food Waste in Japan	・現在完了形(完了・結果 経験・継続) ・現在完了進行形	22
	5					22
	6	Unit 3 How can we save animals? Stage Activity 1 Discover Japan	・不定詞 ・日本や郷土の文化などについて、詳しい情報を加えて説明することができる。	Lesson 8 Skating for Peace	・名詞 ・不定代名詞 ・再帰代名詞	5 22
	7	《 第2回考査 》		《 第2回考査 》		
		Let's Read 1 A Mother's Lullaby	・場面の変化や登場人物の心情を読みとる	復習		4
	8	Unit 4 How can we help each other in a disaster?	・間接疑問文	Lesson 9 Thank You, Kaka Murad	・前置修飾と後置修飾 ・分詞の形容詞用法	22
	9					
	10	Unit 5 What makes a good leader?	・関係代名詞 ・後置修飾	Further Reading ① Can Magnets Help the Growth of Soybean Seeds?		22
	11	Stage Activity 2 My Activity Report	・これまでの経験を振り返って活動報告を発表することができる。	Lesson 10 A Jaded Man for the First Time	・関係代名詞(主格・目的格)	22
後期		《 第3回考査 》		《 第3回考査 》		
	12	Unit 6 What does it mean to be a global citizen?	・仮定法(仮定法過去)	Lesson 11 AI and Man Working Together	・不定詞の発展的用法 ・It ~ (for-)to... ・疑問詞+to ・too ~ to.../ enough to~ ・原形不定詞	22
	1	《 第4回考査 》		《 第4回考査 》		
		[冬季休業中]				
	2	Stage Activity 3 Let's Have a Mini Debate Let's Read 2 Power Your Future Let's Read 3 Coloring Outside the Lines	・主張とその理由を明確にしながらミニディベートをすることができる。 ・概要を理解し、自分の考えや意見を述べることができる。 ・人物の歩みや功績を読み取り自分の感想を述べるができる。	Lesson 12 A War Storyteller from the Himeyuri Student Corps Further Reading ② A Woman Who Changed People's Old Ideas	・間接疑問、付加疑問 ・感嘆文 ・仮定法過去	22
		《 年度末考査 》		《 年度末考査 》		
				3年間の総まとめ		5
		《 スプリングチャレンジ 》				
		総時間数				195

第3学年 道徳年間指導計画

学校の教育目標	科学的思考力と創造力を身に付け、21世紀の社会を各分野で主体的に担っていくことができる生徒の育成	教科書 検定教科書「中学生の道徳」
	幅広い知識と国際的な感覚を身に付け、国際社会で活躍できる知的バランスのとれた生徒の育成 豊かな人間性をもち、自分を律し他を尊重しながら個性を伸長する意欲ある生徒の育成	
学年の重点項目	広い視野をもち、何事にも最善を尽くし理想の実現を目指して自己の人生を切り開く意欲と態度を育てる。	

月	主題名	内容 項目	資料名	ねらい
4	オリエンテーション	-	オリエンテーション	生徒が主体的に楽しく道徳学習に取り組めるよう、意欲を引き出す。
	個性の伸長	A-(3)	道徳 はじまりの時間 自分と向き合う	又吉直樹さんや町田博雅選手の姿から、人生は自己を見つめて、時に悩みながらも、個性を生かし、伸ばしていこうとすることの連続であることに気づき、自らの向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求していこうとする道徳的実践意欲を養う。
	より高い目標を目指す	A-(4)	夢へのステップー大谷翔平	目標設定シートが大谷選手に与えた影響について考えることを通して、目標達成を目指す努力を積み重ねることは自信と次に向け挑戦する勇気をもたらす事に気づき、自己の可能性を伸ばし、より高い目標の達成を目指して人生を切り開いていこうとする道徳的実践意欲を養う。
	家族の愛情と家族への敬愛	C-(14)	おひだまり	おひだまりの下で本当の自分の思いを見つめるあずみの心情について考えることを通して、家族の愛情と自らの家族への敬愛の念で生まれる絆に気づき、自分自身と家族の関係を見直し、よりよい家族関係を築いていこうとする道徳的実践意欲を養う。
5	生命の不思議	D-(19)	十五分後の奇跡	感染症で意識がない女性の出産という奇跡のような出来事について話し合うことを通して、人間の力を超えた生命の不思議さや尊厳について、その神秘性や有限性などを含めて理解し、かけがえのない生命を尊重しようとする道徳的実践意欲を養う。
	礼儀の意義	B-(7)	挨拶の力	挨拶に込められた思いや礼儀の意義についての意見交換を通して、相手の人格を認め、尊敬や感謝の念を伝える礼儀のよさや大切さに気づき、時と場に応じて適切な言動をとうとする道徳的実践意欲を養う。
	心から信頼できる友達	B-(8)	ライバル	友情をめぐる良心の可哀に苦しみながらも、それ乗り越えていこうとする啓介と康夫の心情を共感的に理解することを通して、心から信頼できる友達とのよさや大切さに気づき、信頼で結ぶ、互いに励まし合い、高め合う関係を築いていきたいと願う道徳的実践意欲を養う。
6	いじめの残酷さ	C-(11)	卒業文集最後の二行	T子さんへのいじめを悔いる筆者の心情について考えることを通して、人間性をないがしろにするいじめの残酷さと、そんな愚かないじめを引き起こす人間の弱さや醜さに気づき、差別や偏見、いじめや不正な言動を断固として許さない道徳的実践意欲を養う。
	いじめと道徳	D-(22)	君たちはどう考え、どう生きるか	さまざまな意見を読んで、いじめと人間としての生き方について考え、いじめの残酷さやその根拠にある人間の弱さや醜さに気づき、自らの弱さや醜さと向き合いつて、それを乗り越えていこうとする道徳的実践意欲を養う。
	温かい人間愛	B-(6)	六万円のご縁	崎元さんが獲ってくれていることを知った黒野屋さんの涙のわけを考えることを通して、互いを思いやり、尊重し合う人間愛の尊さに気づき、思いやりをもって人と接するとともに、自分を支えてくれる人々に感謝し、応えようとする道徳的実践意欲を養う。
	役割と責任の自覚	C-(15)	監督がくれたメダル	嫌だったノックを丁寧に打つようになった「私」の心の変化について考えることを通して、集団における役割を果たすよさや大切さに気づき、自己の所属する集団の意義や役割を理解し、責任を自覚して集団生活の充実にもつめる道徳的実践意欲を養う。
7	責任の自覚	A-(1)	ピヨ子	さくらの前線が射撃したことへの登場人物の姿勢について考えることを通して、情報社会における行為と責任の関係をみつめ直すことの大切さに気づき、自ら考え、判断し、実行し、自己の行為の結果に責任をもつ道徳的実践意欲を養う。
	安全で調和のある生活	A-(2)	リアルとネットの不思議	現実の生活に置き換えるとおかしなことがインターネット上ではよく起きている理由を考えることを通して、情報機器で生活を過ごすことの要因とより慎重に考えることの大切さに気づき、態度を守り、安全で調和のある生活を送ろうとする道徳的実践意欲を高める。
	-	-	前期の振り返り	前期の自分を振り返り、今後を考える。
9	国と国との友好の絆	C-(18)	海と空ー世界の人々	エルトケール号の話を聞いた「私」の思いについて考えることを通して、国境を越えて助け合う人間のよさや気高さに気づき、世界の平和と人類の発展のため、他国の人々と支え合い、助け合うことを願う道徳的実践意欲を養う。
	公徳心	C-(10)	ベビーカー論争	ベビーカー論争の解決について考えることを通して、社会生活における公徳心の大切さに気づき、道徳精神とそれを支える公徳心を大切にして、誰もが暮らしやすい安定した社会の実現にもつめる道徳的実践意欲を養う。
	相互理解を深める意義	B-(9)	目の見えない白鳥さんとアートを見に行く	目の見えない白鳥さんとの鑑賞体験における鑑賞者の変化について考えることを通して、いろいろなものを見方や考え方を学ぶことで自己を高めていけることに気づかせ、寛容の心でそれぞれの個性や立場を尊重しようとする道徳的実践意欲を養う。
	勤労の意義	C-(13)	分身ロボットカフェへようこそ	分身ロボットカフェで働く酒井さんの思いを考えることを通して、自分の能力を発揮して、社会に参加することで得られる勤労の喜びや充実感に気づき、勤労を通じて社会に貢献していこうとする道徳的実践意欲を養う。
10	思いやりの心	B-(6)	月明りで見送った夜行バス	1先生の気持を察して電気を消すY先生と、それに対して声をあげ拍手を送る先生たちの思いについて考えることを通して、相手の重荷にならない思いやりのよさや大切さに気づき、深い理解と共感に基づく思いやりの心を大切にする道徳的実践意欲を養う。
	生命倫理をめぐる葛藤	D-(19)	ドナー	二つの投書者の意見の根拠にある命に対する感じ方や考え方を探り、生命倫理の問題について考えることを通して、人間の生命は多面的・多角的にとらえることができることに気づき、自他の生命の尊厳を守る道徳的実践意欲を養う。
	責任ある判断	A-(1)	リクエスト	自分たちの軽はずみな行為を悔やむ伊藤君たちの心情を共感的に理解することを通して、自発的な思考や判断と責任の大切さに気づき、主体的によく考えて判断し、行動の結果に責任をもつ道徳的実践意欲を養う。
	法やきまりの意義	C-(10)	二通の手紙	元さんが二通の手紙から「この年になって初めて考えさせられること」について考えることを通して、法やきまりには安全や秩序を守るなど立法された意義があることに気づき、主体的に遵法することによって実現される社会の実現にもつめる道徳的実践意欲を高める。
11	理想を追い求める	A-(4)	風に立つライオン	「風に向かって立つライオンでありたい」と願う「剛」の生き方について考えることを通して、人生の理想を追い求める生き方を支える意志や希望に気づき、自らの人生を切り開いていく気高さを尊ぶ道徳的実践意欲を養う。
	心からの感謝	B-(8)	二人の道徳選択	道徳選択で相手を選ぶことができなかった二人の心情を考えることを通して、互いの人間性を信じて思いを伝え合える信頼の大切さに気づき、互いに理解を深め、悩みや葛藤を経験しながら築かれた信頼に基づく人間関係を尊ぶ道徳的実践意欲を養う。
	探究して新しいものを生み出す	A-(5)	小浜のさば街、宇宙へ行く	守道食さば街の発展に取り組んだ生徒たちの思いについて考えることを通して、新しい可能性への好奇心や探究心のよさや大切さに気づき、真理を探究して、新しいものを生み出していこうとする道徳的実践意欲を養う。
	人間としての生き方・あり方	D-(22)	二人の弟子	フキノトウを見て再起しようとする道徳や、純白の百合を見て涙を流す習作の思いについて考えることを通して、自己の弱さや醜さを乗り越えようとする人間の強さや気高さに気づき、人間としてよりよく生きる喜びを見だしていこうとする道徳的実践意欲を養う。
12	家族の一員として	C-(14)	尊い玉子	事情を聞いた家の主人の視点から、「私」、姉、母の思いについて考えることを通して、深い愛情で結ばれた家族のよさに気づき、感謝と敬愛の念をもって家庭生活を築き、共に支え合う家族を大切にする道徳的実践意欲を養う。
	自然との共生	D-(20)	襟裳のこと	襟裳の人々による自然再生の取り組みを知り、人間が自然と共存していくことについて話し合うことを通して、自然の素晴らしさや自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然の保護にもつめる道徳的実践意欲を養う。
	社会参画と社会連帯	C-(12)	ゼロ・ウェイストの町ー徳島県上勝町	ゼロ・ウェイスト政策を推進する上勝町の人々の思いを考えることを通して、社会の発展に主体的に参画し、多くの人々と助け合いながら社会連帯を深め、社会的な役割と責任を果たす大切さに気づき、よりよい社会の実現を目指す道徳的実践意欲を養う。
	-	-	後期の振り返り	後期の自分を振り返り、今後を考える。
1	心の通い合い	B-(6)	ある元旦のこと	挨拶場に深く頭を下げる少年を自筆した筆者の感動を共感的に理解することを通して、人と人の心の通い合いのよさに気づき、人は互いに支え合って生きていることを自覚し、思いやりと感謝の心をもって他者に接しようとする道徳的実践意欲を養う。
	人が生きるということ	D-(19)	誰かのために	残りわずかの時間を子どもたちのために必死に生きようとする母の姿から、「誰かのために生きる」ことについて考えることを通して、生命の尊厳を有個性や個性など多面的・多角的に理解し、かけがえのない生命を尊重する道徳的実践意欲を養う。
	差別や偏見のない社会	C-(11)	ネルソン・マンデラ	ネルソン・マンデラが目指した理想の実現について考えることを通して、差別する人間の弱さや受け入れ者の強さに気づき、正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接して、差別や偏見のない社会の実現を目指し、よりよい社会の実現を目指す道徳的実践意欲を養う。
2	人間としての誇りある生き方	D-(22)	響け、私のトロンボーン	自分の弱さや醜さに気づき、それを乗り越えようとした敬生の思いを考えることを通して、人間としての誇りある生き方のよさや気高さに気づき、自らも弱さや醜さを乗り越えながら、よりよく生きていこうとする道徳的実践意欲を養う。
	伝統文化を守り受け継ぐ	C-(17)	運命の木ー姫路城の太柱	姫路城の太柱に込められた人々の思いを共感的に理解することを通して、先人の残した伝統文化の大切さとそれを守り受け継いでいくことの意義に気づき、我が国の優れた文化の継承と文化の創造に貢献しようとする道徳的実践意欲を養う。
	畏敬の念	D-(21)	メジロ	メジロの命を奪ってしまった「私」の思いを共感的に理解することを通して、人間には人の力を超えたものを素直に感じ取り、畏れ敬う心があることに気づき、生命の尊厳を自覚し、人間としてのあり方を見つめていこうとする道徳的実践意欲を養う。
3	郷土を愛する思い	C-(16)	千年先のふるさとー宮城県女川町	「ふのちの石橋」に込められた女川中学校の生徒たちの郷土に対する思いについて考えることを通して、その地に生きる人々を育ててきた郷土が有する多様な側面に気づき、自らの郷土を愛し、主体的にその発展にもつめる道徳的実践意欲を養う。
	自己の生き方考える	A-(1)	小さな手鏡	筆者の考えを知り、道徳科での学習を振り返ることを通して、自己理解、他者理解、人間理解に基づく自己の生き方考える大切さに気づき、道徳的自覚に支えられた自発的な生き方を通じて人間としての誇りを大切にしようとする道徳的実践意欲を養う。
	すべて	すべて	SDGsの視点から持続可能な社会に向けて	持続可能な社会の実現に関わる現代の課題について考えることを通して、自然との共生、すべての人々の自由と平等、そして豊かで幸福な生活の実現の大切さに気づき、よりよい社会の実現を目指す道徳的実践意欲を養う。
-	-	-	1年間の振り返り	1年間の自分を振り返り今後を考える

教 科 名		年間授業時数	学 年
サイエンス（課題研究）		39	3
授 業 形 態	指 導 者 名		
一斉授業	松末昌樹 平井敬貴 森 逸美 奥野晃司	吉本亜希穂 土井夏美 小山有紀	岡田紘典 木挽屋菜摘 武下晃慎 有和仁美 鈴木浩司 加門敏弘

目 標	生徒が自ら問いを立て、情報を収集・整理・分析し、論理的に思考しながら課題の解決を図る探究的な学びを通して、主体的に学ぶ態度や課題解決能力を育成する。また、調査・実験・発表などのプロセスを通じて科学的に調べる能力と態度を身に付け、情報活用能力、コミュニケーション能力、協働的に学ぶ力を高めるとともに、自己の興味・関心を深めながら将来の進路選択への意識を高める。
学習のねらい	①課題研究において探究内容を社会科学、人文科学、自然科学に分類し、文献の調査の方法を身に付ける。 ②文献調査をヒントに探究課題を設定し、課題意識を持たせるとともに、様々な解決方法を考えさせることによって論理的な思考力を身に付ける。 ③論理的思考力を構成する様々な推論形式（ピアジェの形式的思考操作）を強化することによって、認知能力の促進・加速を図る。 ④研究発表会、論文集を作成し、3年間のサイエンス・グローバル・AMAKI学・各教科の学習の集大成とする。
評価の観点	①課題解決のために様々な解決方法を考えようとする態度が身に付いている。 ②課題を解決するために実証的、論理的に考えたり、分析的、総合的に考察したりすることができる。 ③形式的思考操作ができる。 ④他者の意見を参考にして論理的な思考や判断をし、自分の考えを論述することができる。 ⑤自分の意見を適切にまとめ、効果的な発表ができる。
先生からアドバイス (授業の受け方、ノート の取り方など)	- 積極的に授業へ参加し、自ら学び、自ら表現する力を身に付けましょう。 - 課題探求の過程では、答えが一つには決まらない課題も出てきます。柔軟な発想や調査活動を通して様々な可能性をしっかりと考えましょう。 - 仲間や先生との議論を通して、批判的、複眼的、分析的に考え、自分の考えを論文で発表しましょう。 - グローバルで学習している言語技術の手法とサイエンスで学習した科学分析方法を利用して、自分が研究したい内容（各教科で得た知識）について意見が言えたり、文章が書けたりするようになりましょう。

年 間 授 業 計 画 表 (45分授業)

学期	月	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期	4	・ 方針説明 ・ ゼミ開講・ゼミ内の計画方針 ・ テーマ・リサーチクエスト探し ・ テーマ・リサーチクエストの決定	4	・ ゼミ内の年間計画を立て、組織的、効率的に活動できる環境を設定する。 ・ 担当教師としっかりとディスカッションをする。
	5	・ テーマ・リサーチクエスト検討会 ・ 文献調査など各自の活動 ・ 研究計画を立てる。 ・ 調査やヒアリングを行う。	4	・ 文献調査から導かれた新たな課題について個人で探究活動をすすめる。
	6	・ 研究中間報告	4	・ ゼミ担当者がアドバイザーとなり、探究方法などについて計画を立てる。
	7	・ 調査、研究	3	・ ヒアリング調査、質問調査、インタビュー調査や実験など体験を通して課題を解決していく。
	8	・ 調査結果をまとめる。		・ 文献やインターネットを使って情報を収集することができる。
	9		4	・ 集めた情報を人にどのように伝えるかその内容のまとめ方を習得する。
後 期	10	・ 論文作成の準備をする。	5	・ Thinking Science、グローバルの授業で学習した科学的分析方法や、パラグラフライティングの手法を用いて調査探究をした内容について論文を作成する。
	11	・ 粗原稿提出	4	
	12	・ 論文修正	3	
	1	・ 研究論文集の作成 ・ ポスターの作成	4	・ プレゼンテーションの技能を身に付ける。
	2	・ 発表準備 ・ 課題研究発表会	4	・ 研究の成果をまとめる ・ 1年間の研究成果を発表する。
		総 時 間 数	39	